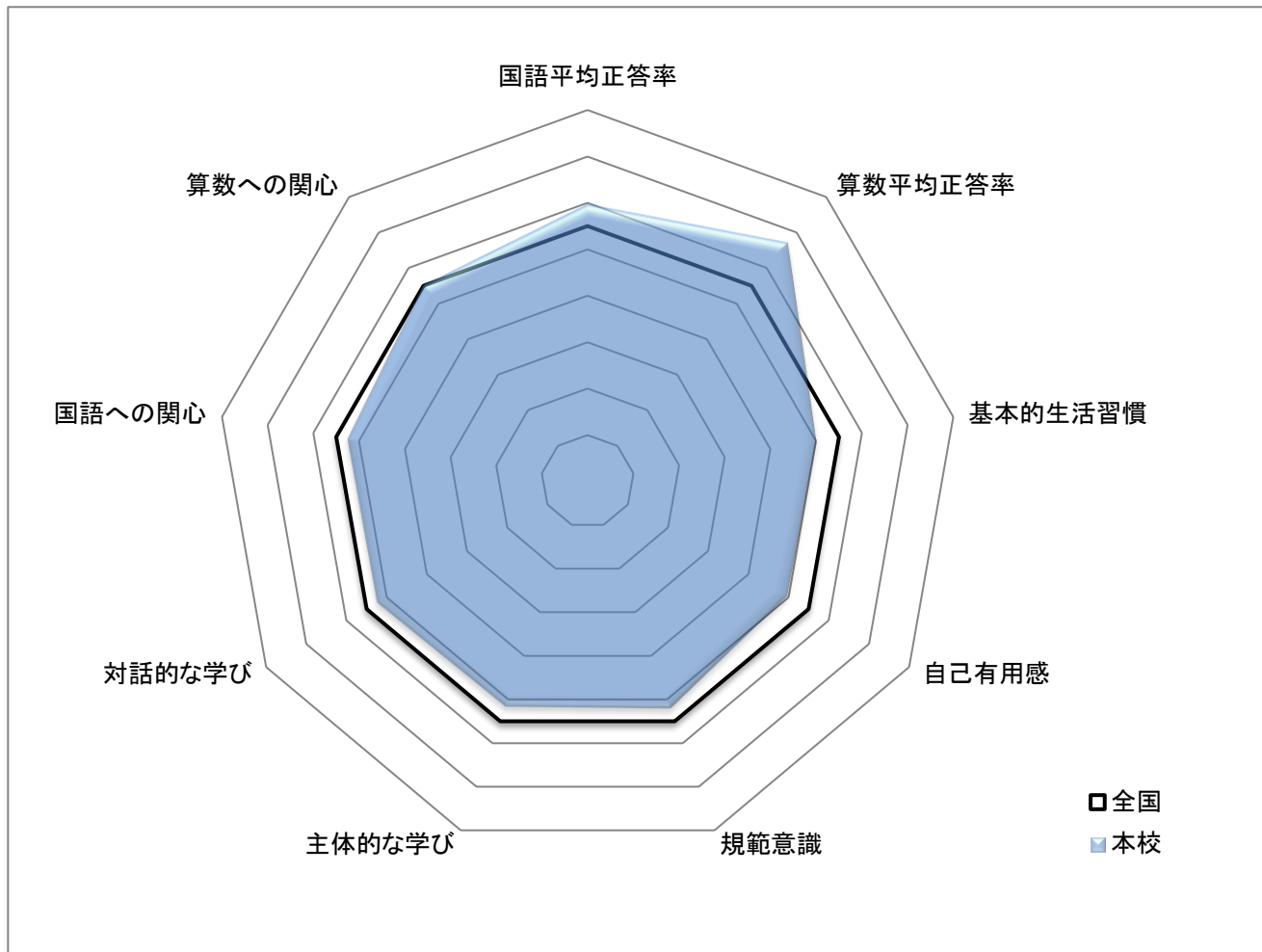


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

算数の結果を観点別に見てみると、〔知識・技能〕が81.6%（都より+10.7）である。C層の激減ぶり、知識・技能の高得点から、普段の授業の充実とともに、南二道場の補習学習が、確実に効果を上げていると言える。〔思考・判断・表現〕は、59.9%（都より+5.5）である。併せて、算数の記述式の正答率は48.7%（都より+8.0）である。かねてより考え方や式を言葉で説明することを大切にしている。考え方や式を言語化することを大切にして指導してきたことが、児童の力を高めている。

《授業改善のポイント》

漢字の書きについては、これまでも本校の課題である。家庭での学習習慣がなかなか定着せず、習熟が必要な分野がウィークポイントである。既習漢字を適宜使って文章を書いたり、意味の分からない言葉が出てきたら辞書をひいて調べたりする習慣を身に付けさせる。全ての教科において自分の考えがもてるように、「比較する」「関連付ける」「分類する」「類推する」など、考える方法を指導していく。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対し、肯定的解答が全国平均92.2%に対し、本校は86%であった。決して低い数値ではないものの、自分で課題を解決し、満足感、達成感を得るような学習の成功体験をもっと積み重ね、児童の言動について、褒めたり励ましたり、適切な声かけを増やすなどして、自己有用感を高めていきたい。

《チャートの特徴》

【国語】では、〔読むこと〕が66.8%（都より+5.8）で、一番高かった。また、記述式も67.5%（都より+8.2）で、高得点であった。都の平均より低いのが、漢字の書き74.2%（都より-3.7）である。【算数】は、A層B層合わせて、68.1%。ここ数年間の本校の特徴は、A層は、都の平均値ほどの人数がいるが、B層は都の半分、C層が都の二倍の人数という傾向だった。それがA層32%、B層36.1%と高くなり、C層は18.5%と激減している。これは、記述式において、必要に応じて書く型に合わせて書くこと、音読や読書タイムなど読むことを重視して、問題文を正確に読めるようにすることなど、基礎的・基本的なことを繰り返し習熟を図ったことで、CD層の児童が、問われたことを理解し、自分なりに考えを書くことができるようになったことが大きな要因と考えてい

《家庭・地域への働きかけ》

家庭で実施できる有効な取り組みを具体的に保護者に示し、親子でコミュニケーションをとりながら学力向上が図れるようにする。保護者会、学校便り、学年便りなどで、家庭学習を習慣付けることの大切さやノートをきちんと書くことの重要性、今求められる学力などについて、分かりやすく伝え、協力を求めていく。